

目次

5年目を迎えるパルシック	1
東ティモール：新たな10年へのチャレンジ	2
スリランカ：事業地域の広がり	4
東北：十三浜の復興支援	6
マレーシア：持続可能な漁業への協力	8
ツアー：2012年度ツアー計画	9
フェアトレード	10
広報	11
協働の場としてのパルシック	12
2012年度予算	13

はじめに

パルシックは、2012年、アジア太平洋資料センターから業務分割して5年目を迎えます。

スリランカの内戦終結、3・11東日本大震災という大きな出来事に翻弄された4年間でしたが、そこで出会った人たちとともにしっかりと足場を固める5年目にしていきたいと考えています。2011年に課題としていた「社会企業としてのマーケティング/マネージメント力をつける」ことも、2012年の課題として引き継ぎます。

2012年は、PARC時代から10年間続けてきた東ティモール、マウベシ郡でのコーヒー事業が一区切りを迎え、新しい10年に向けての出発の年でもあります。マウベシ郡から一歩出て、広く東ティモール全域を視野に入れて新たな事業を展開します。

スリランカでも、北部のムライティブ県という新しい地域に活動の場を広げます。

そして2012年は、東ティモール産のハーブティーと、スリランカ南部の紅茶を使ったアールグレイティーがパルシックのフェアトレード商品に新たに加わる予定です。そしてもちろん東ティモールから、マウベシ、サココのコーヒーも引き続き輸入します。2012年はアラビカ・コーヒー収穫の表年と言われ、豊作が予想されています。その販路を拡大することは、2012年のパルシックの大きな課題です。

みなさまの引き続きのご支援、ご協力をよろしく申し上げます。

世界の各地で暮らす人びとが、それぞれの場所で自らが持つ力を生かして生活していける場を作ること、それぞれ異なった場所に暮らす人々が、お互いの経験を尊重し合い、対等につながっていけること、その交流、交易が促進される社会を目指して、2012年も各地で活動を行います。

2008

- 法人としての出発にあたり、制度などの整備
- WEB、広報ツールの制作
- フェアトレード商品のパッケージ制作と初期営業

2009

- スリランカ内戦の終結による緊急救援の開始（8月）
- 東ティモールにおけるコーヒー生産者協同組合モデル普及事業開始（7月）
- 東ティモール・コーヒー産地女性による生計向上プログラム開始（11月）

2010

- スリランカ帰還民のための復興支援事業
- スリランカ・ジャフナの漁村女性の干物生産事業開始（10月）
- スリランカ南部での支援開始（キトゥル生産）
- 東ティモール協同組合局長の日本招聘

2011

- 3・11東日本大震災被災者支援活動の取組み開始
- スリランカ南部における紅茶生産者支援の開始
- 東ティモールにおけるハーブ生産の開始

2012年度計画

- | | |
|------------------------------|---|
| 1. 東ティモール：
新しい10カ年事業のスタート | ① 循環型農業と森林保全型活動
② 女性による食品生産支援（一村一品型）
③ エコツアーの推進 |
| 2. スリランカの各地での展開 | ① 北部ムライティブ県での復興支援事業
② 干物事業：マーケティングへ
③ 南部における紅茶生産とフェアトレードの開始 |
| 3. 東日本大震災被災漁村の復興支援 | ① 漁業復興支援（わかめ生産）
② 農業復興支援
③ 行政と協力したコミュニティ復興と文化支援 |
| 4. マレーシア：沿岸漁民との交流・協力 | |
| 5. フェアトレード | ① 営業力の強化
② アールグレイ紅茶とハーブティーの販売開始 |
| 6. 広報の充実（WEB改訂など） | |

2012年、東ティモールは2002年5月20日の独立（主権回復）から10周年を迎えます。大統領選挙（3月17日の選挙後、4月16日に決選投票）と国会議員選挙（6月）が行われる年でもあります。この両選挙が無事に終了した場合、2006年の騒乱の後に国連平和維持活動の一環として派遣された国際連合東ティモール統合ミッション（United Nations Integrated Mission in Timor-Leste = UNMIT）が12月末に撤退します。東ティモールが本当の意味で主権国家となるわけですが、UNMITの撤退によってただでさえ就労の場のない東ティモールで、900人以上の事務職員、運転手などが職を失うといわれています。また撤退によって、レストランやスーパーの売上が落ちるであろうことも懸念されます。東ティモールがどのような国づくりを進めていくのかが本格的に問われることになるでしょう。

パルシックにとっても、2012年は東ティモール事業の新しい10年の発足の年となります。

循環型農業と森林保全

東ティモールを初めて訪れた時、東南アジアの一角にいるとは思えないほどに広がる禿山の景色に衝撃を受ける人は多いと思います。原因はポルトガル時代にそれまで多くあった白檀の木が伐採されたこと、インドネシア時代にインドネシア軍が対ゲリラ戦のために森林を一掃したことなどといわれていますが、薪としての消費もその大きな要因であることは間違いないようです。

東ティモールのエネルギーの90%は薪に依存しているといわれています。そこで住民たちとゾーニングなどの作業を通じて森林の利用状況を把握し、薪の貯蔵方法やかまどを改良することで薪の利用効率を高める取り組みを進めていきたいと思っています。

農村女性による生計向上事業

2009年から2011年、マウベシの農村女性たち



による蜂蜜、ソラマメチップス、サツマイモチップスの生産と販売を応援してきました。そのなかからハーブティーのフェアトレード商品も生まれました。2012年はこの事業を継続するとともに、全国の農村女性たちによる生産活動とマーケティング、女性グループのネットワーク作りの支援へと拡大していきたいと考えています。（この事業の一部は国際協力NPO助成の助成を得て実施します）

ディリでの拠点づくり

マウベシでのコーヒー生産は一次加工までで、パーチメントという薄皮がついた状態でコーヒー豆を首都ディリに運びます。パーチメントから出荷までの二次加工を従来は専門の業者に委託していましたが、ここまですを自前で行ない、コーヒーの焙煎もする小規模な工場と、焙煎したてのコーヒーを楽しむカフェをディリ市内につくって諸活動の拠点とすることを計画しています。

アグロフォレストリー(森林保全型農業)の普及により
農民の生活改善と森林保全を推進

循環型農業と森林保全

土地利用マップ

薪の利用効率化

森林保全型農業の普及

薪利用量の減少と
森林保全

コーヒー生産者組合支援

女性による特産品生産

ディリに活動拠点を建設

コーヒー二次加工施設
焙煎工場・喫茶店
女性事業のアンテナショップ



北部州ジャフナ県

干物事業(2年目～3年目の課題)

- マーケティングと経営指導を中心に、女性たちが定収を得られるようにする。
- さきいかなど目玉商品を定着させるようにジャフナ事務所のマーケティング力を強化する。



北部州ムライティブ県

内戦復興支援事業

- 帰還民への漁具の提供を中心に生活再建を支援する。
- 今後の復興への支援を計画する。



南部州マータラ県デニヤヤ

紅茶の生産者

- 2011年度から有機紅茶栽培に転換開始している25世帯に加え、新たに25世帯の農家が転換を開始する。
- アールグレイ紅茶の輸出を準備する。



スリランカで2009年5月に政府軍の圧倒的勝利として内戦が終了してから、3年が経とうとしています。ジャフナでは経済復興として都市部には新しいホテルが建ち、観光客が来はじめています。しかし、1983年以来、繰り返し戦場となったジャフナ県を含む北部州ではいまだ地雷撤去もできていない地域もあり、帰還できないまま近隣の村や親せき宅に身を寄せているIDP（国内避難民）もいます。パルシックは、2012年、北部州で従来の活動地ジャフナに加えて新たにムライティブ県での事業を開始します。また2年目に入る南部州マータラ県の紅茶生産者支援事業では、いよいよ本格的に紅茶の輸出を開始します。またジャフナ事務所のスタッフの能力育成も重要な課題で、そのための専門家派遣や調査事業にも取り組んでいくことを計画します。

ジャフナ県での干物事業

内戦終了後の2010年10月に開始した干物事業は2012年で2年目を迎えます。今年度、2011年に入って難民が帰還したマルダンカーニー地方のカッタイカドゥという漁村でも事業を開始します。今年度の課題は二点、①女性たちの収入が安定すること、②そのためにもマーケティング能力を強めることです。（この事業はJICA草の根協力事業パートナー型の支援を得て実施します。）



ジャフナ県でのサリー・リサイクル事業

2011年度の帰還民の緊急支援事業の一環として、マルダンカーニー地方の女性たちにミシンを提供しました。この女性たちとともにスリランカの美しいサリーを使ってバッグやスカートにリサイクルする事業を開始します。



ムライティブ県での事業開始

2009年5月、内戦の最終段階で激戦地となったムライティブ県は難民の帰還が遅れ、2011年11月になって初めて帰還が認められた漁村が大半です。そして住民たちの多くは家族の一員を失っています。パルシックは2012年にこのムライティブの漁村の帰還民に漁具を提供する事業を開始します。（この事業はジャパン・プラットフォームの助成を得て実施します。）



紅茶生産の本格化

南部州マータラ県デニヤヤ郡で2011年度に紅茶生産を有機栽培に転換する事業を開始しました。デニヤヤ郡はアジアでも稀有な熱帯雨林、シンハラジャ環境保護区に隣接する山間地帯であり、周辺南部各地の重要な水源地帯でもあります。2012年度は25世帯で開始した有機栽培を、キリウエラガマ村とキリウエラドラ村の50世帯の農家に拡大します。牛の糞を堆肥として使い、有機農法を実践し、できた茶葉は近隣のニルミニ茶園に加工を委託して、アールグレイ紅茶としてパルシックのフェアトレード商品に加える計画です。（この事業は国際ボランティア貯金の助成を得て実施します。）

パルシックは、2012年度も、石巻市北上町十三浜地域を拠点として東日本大震災被災者の支援事業を行ないます。時間とともに現地の情報が少なくなり、また現地を訪れていく人が減っていくことが懸念される中、継続して被災者の復興への取り組みに寄り添いつつ、情報を発信し、ボランティアの派遣を行います。北上町十三浜は平成の大合併で2009年に石巻市の一部となりましたが、震災後の復興過程ではむしろ十三浜地区として互いに助け合いながら復興に取り組んでいます。



農業復興支援

震災前、この地域では住民の90%が農業で収入を得たり、自家消費用に米や野菜を栽培したりしていました。漁業に従事していた家庭でも家の裏に畑をつくって自家消費用の野菜を作っていました。しかし、農地が被災したり、農機具を失ったりしたため、その多くが農作業を再開できずにいます。仮設住宅に居住する高齢者は農作業ができなくなったため自宅にこもりがちになり、生活不活発病も懸念されます。パルシックは2012年度、被災した女性を中心として、仮設住宅周辺の畑で野菜を共同栽培し、近隣に設置した直販所で販売するようにします。さらに野菜を漬物ジャムなどに加工して、地域の特産品として販売することも目指します。(この事業はジャパン・プラットフォームの助成を得て実施します。)



漁業復興支援

2011年度に取り組んだワカメ養殖のための作業場建設に引き続き、ワカメの販売支援、ボランティアの派遣などを通じて漁業の復興を支援していきます。(この事業は米国の財団、Give 2 Asiaの助成を得て実施します。)

高台移転に向けた住民の合意形成

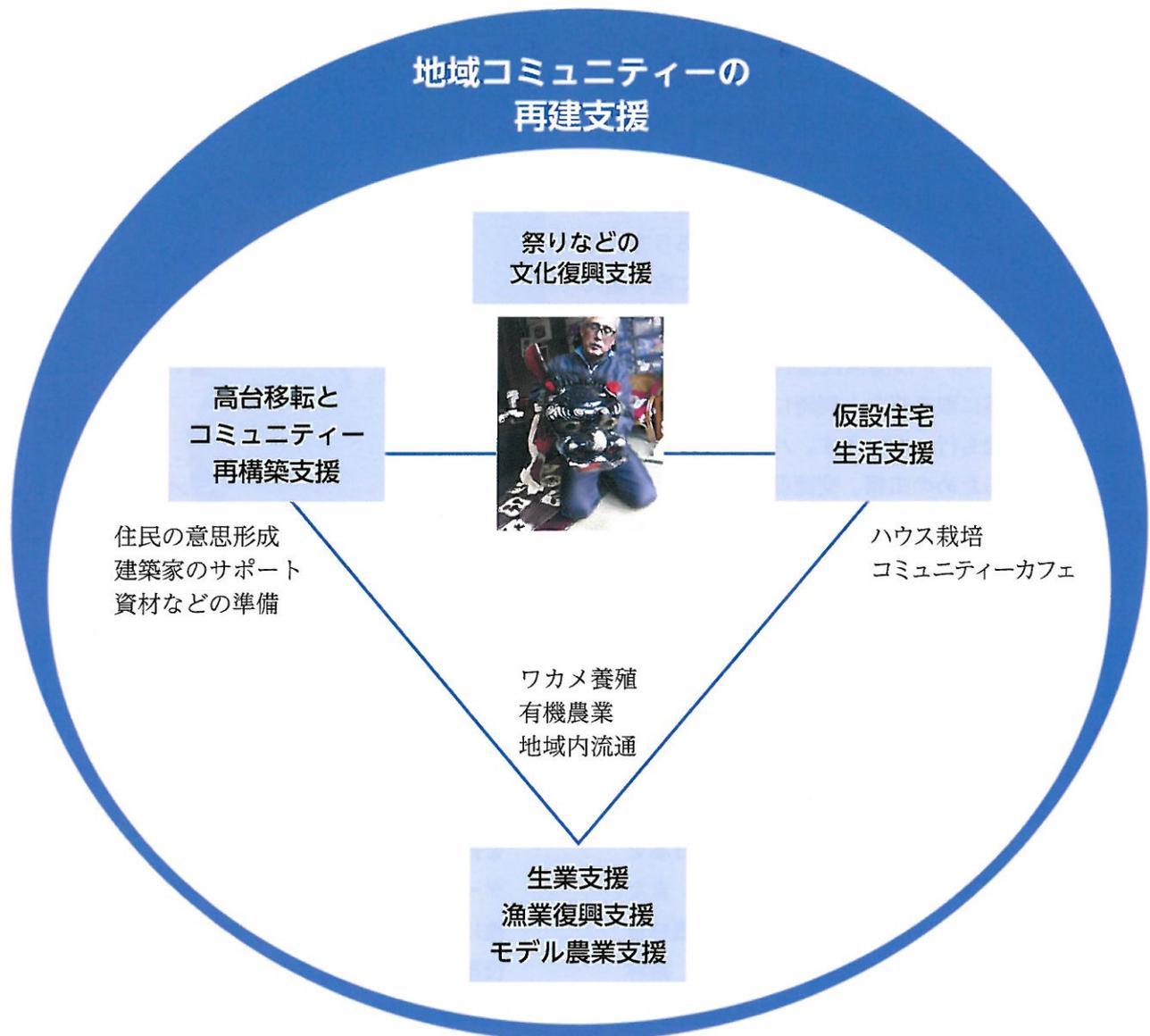
北海道大学、法政大学の教員の皆様、日本建築家協会宮城県支部の皆様と協力しながら、被災者が従来のコミュニティーを維持しながら高台移転を果たすことができるようにワークショップを開催したり、住民のアンケートをとったりする活動を支援します。



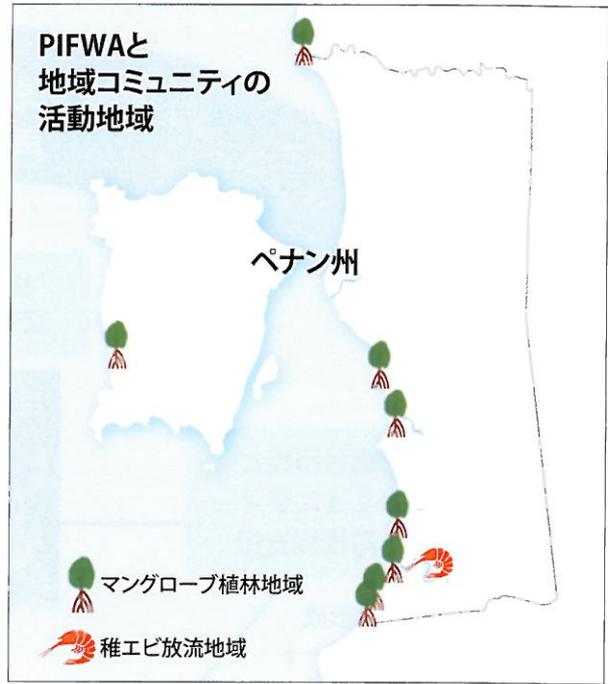
伝統文化の復興支援

津波はこの地域の伝統的な祭りでする面や太鼓、獅子などをも流してしまいました。見つかったものも破損しています。こうした祭りの道具の復旧を支援し、地域の人々が再び祭りを楽しむことができるように応援します。

北上町十三浜復興支援



マレーシア国ペナン州は古くから商業、工業の拠点として栄え、また沿岸には豊かな水産資源、マングローブ林の存在する地域でした。しかし、近年進んでいる急速な開発で沿岸地域の埋め立てが進み、水質汚染、マングローブ林の喪失など、環境問題が深刻になってきています。開発が進む地域での水産資源管理の重要性、生態系を損なわない持続可能な漁業のあり方が問われる中、地域の零細漁民が沿岸水産資源に取り組んでいます。PIFWA (Penang Inshore Fishermen's Association = ペナン浅海漁民福利協会) は、マングローブ植林事業に取り組むと同時に、資源保全のために稚エビの放流も行っています。パルシックは、この活動を強化するための広報、交流促進や、稚エビ放流事業を今後さらに発展させるための調査を実施します。



マングローブ植林事業支援

ペナン州の沿岸漁民団体 PIFWA と協働し、同州半島部の沿岸で、開発によりマングローブ林が失われた地域での植林活動を行います。ペナン州およびマレーシア他地域の学生や労働者、日本を含むアジア各国からも参加を呼び掛けます。また、同州スンガイ・アチェ地区に現在建設中の植林普及センターを通し、ペナン州内外の市民に、植林の重要性を広く伝えていきます。(この事業はイオン環境財団の助成を得て実施します。)

広報と交流事業

PIFWA の活動をより多くの人々に知ってもらうために、ホームページの作成をはじめとした情報発信ツールの活用、また、日本からのツアー実施などの交流促進を行います。

PIFWA の活動

PIFWA は地域で沿岸漁業を行う漁民が中心となり、環境保護に自主的に取り組んでいる、アジアでも稀有な市民活動団体です。近海や河川でエビ、カニ、貝や魚を獲る漁民たちが、ボランティアで活動に参加しており、現在の会員数は約 30 名。排水による沿岸の水質汚染や、自然災害によ

る被害など、各地域の漁民が抱える問題を、一緒に解決しています。1994年にマングローブ植林事業を始め、現在に至るまで、ペナン州だけで約 20 万本の苗木を植えてきました。現在は、PIFWA メンバーだけでなく、地元で工場を持つ企業のスタッフや学生など、様々なセクターからの参加があります。2004年の津波の後には、災害から人びとの暮らしを守る防波堤の役割としても注目を集めています。また、地域漁民と協働し、現地の川で育つテナガエビの稚エビ孵化、放流活動も行っており、2011年までに約 16 万匹のテナガエビ稚エビを放流しました。



パルシックの各事業地を訪れ、そこで暮らす人々との交流を図るツアーを実施します。2012年度は、5件のツアーを企画しています。

2012年7月15日～21日
スリランカ北部州



内戦後のジャフナで復興を考える

2009年政府によるLTTE(タミル・イーラム解放の虎)制圧宣言により内戦の終結を迎えたスリランカ。戦場となった北部州の多くの地域で、戦時中避難を余儀なくされていた人々の帰還が進んでいます。州都ジャフナでの復興も目覚ましく、南部からの観光客も増えている一方で、戦争によって破壊された農村、漁村に帰還した人々の生活再建は、まだ始まったばかりです。かつて北部の中心であり、スリランカ第2の都市だった街ジャフナ、そしてパルシックが帰還漁民の支援活動を行なう漁民の村々を訪ね、人々と交流します。

2012年9月16日～23日
スリランカ ウバ州・南部州



美味しい紅茶の故郷を訪ねる

スリランカ国内の二つの紅茶産地を訪ね、美味しい紅茶ができるまでの行程、そしてそこで働く人々の暮らしに触れます。パルシックが事業を展開するデニヤヤは、独特の香りが特徴のルフナ茶の産地として知られています。デニヤヤで有機栽培に取り組む小規模農民を訪ね、仏教の聖地として知られるキャンディでは、茶園、紅茶博物館や農業試験場を訪ねます。

2012年12月20日～24日
マレーシア ペナン州



小規模漁民とともに開発と環境を考える

美しい街並みと多様な文化が世界遺産に登録される街ペナンは、リゾート地としても有名ですが、急速な沿岸の開発や排水による水質汚染が進んでおり、環境保全の重要性も高まっています。地域の人々と協働してマングローブ植林、テナガエビの稚エビ放流などの環境保全活動に取り組んでいる沿岸の小規模漁民グループ PIFWAを訪ね、活動に参加しながら開発と環境について考えます。

2012年8月4日～12日
東ティモール アイナロ県



フェアトレードコーヒー生産者を訪ねる

パルシックが東ティモールのコーヒー生産者支援事業を開始して、10年が経過しました。今年は、同国にとって、独立10周年を祝う特別な年でもあります。この旅では、マウベシ郡のコーヒー生産地を訪ね、実際にコーヒー豆の収穫、加工を手伝います。コーヒー農家のお宅に泊まり、農民と直接触れ合いながら、私たちが飲んでいるコーヒーができるまでをたっぷり知るツアーです。

2013年3月16日～24日
東ティモール ラウテム県



自然・伝統文化とともに生きる村を訪ねる

ティモール島の東端ラウテム県の漁村を訪ね、現地の文化、自然を満喫する旅です。漁民や現地環境 NGO との交流の他、伝統織物の見学、海岸でのシュノーケリング、遺跡訪問や無人島へのツアーなど、様々な体験を通し、ティモールの人々の、自然と共に生きる生き方に触れます。協同組合が経営するバンガローに滞在し、地元の食材を使った食事を楽しみます。

※上記ツアー日程は、変更となる場合があります。

フェアトレード

2012年は次の3つの商品を通じて日本社会の中で、フェアトレードと生産者支援の輪を広げていきます。引き続き、営業ボランティアの活動も発展させ、フェアトレード事業に多くの方に参加して頂けるようにします。

1 コーヒー

近年の世界的なコーヒー価格の高騰に加え、2011年は、東ティモールのアラビカコーヒーは収穫の裏年にあたり、例年に比べ収量も下がりました。そのような中でパルシックは引き続き安定した価格で美味しいコーヒーを提供することを目指します。2012年は東ティモール独立10周年記念イベント等で、現地で生産されているコーヒーの事を多くの方に知って頂けるよう努めます。



Café Timor



Uva Tea

2 紅茶

2012年はデニヤ産の有機紅茶を、香り高いアールグレイティーとして販売開始します。またウバのグリーンフィールド茶園が有機栽培で生産した、まろやかで飽きのこない味わいのウバ紅茶も、引き続き多くの方に楽しんで頂けるよう、イベントやホームページでの広報に力を入れていきます。

3 ハーブ

2012年は東ティモールの女性たちが手摘みした、自生のハーブを使ったハーブティーの販売を開始します。販売するのは、知性のハーブと言われているツボクサに爽やかなミントをブレンドしたもの、胃腸に良いとされているアボカドの葉と香りの高いライムの葉の組み合わせ、優しい香りに包まれるスイートバジルの花と葉のブレンド、の3種類です。これらは東ティモールでは古くから重宝されているハーブで、味わいだけではなく、効能についてもお伝えできるよう広報にも力を入れます。生産者である女性たちが、パッケージングまでを現地でを行い、商品が日本へ輸出されます。この収益を通し、女性たちが安定した収入を得られるよう販路を開拓していきます。



Aroma Timor

東京事務局では広報活動を強化していきます。ホームページへのアクセスを増やすための工夫をし、東ティモールやスリランカからの発信も速やかにお伝えするようにしていきます。

1 東ティモール 主権回復10周年



2012年5月20日、東ティモール民主共和国は独立10周年を迎えます。2012年5月に、東ティモールの支援団体主催で、東ティモール独立10周年イベントを開催します。パルシックは主催団体の1つとして積極的にイベントに参加するとともに、東ティモールやフェアトレードコーヒーのPRを行ないます。

3 ホームページ

2011年度7月にホームページのリニューアルを行ない、東京事務所からのPRはもちろん、現地スタッフからの情報発信を増やすことに積極的に取り組んできました。2012年は引き続き、団体に関する情報発信を強化しながら、フェアトレード商品の販売推進活動にも役立てる取り組みを行ないます。



2 イベント出店

また、その他にも各種イベントに積極的に参加するとともに、パルシックが主催となるイベントも計画し、ボランティアのみなさんのお力を借りながらパルシックの活動やフェアトレード商品についての広報活動に力を入れていきます。



4 情報発信

ホームページの更新情報と連動したメールニュースを、既存のネットワークに向けて定期的に発信します。また、新たな人々とのつながりを拓くためにtwitterやFacebook、mixiなどの情報配信ツールを活用し、東京および現地の情報を積極的に公開します。



5 民際協力ニュース

これまでに引き続き、年に2回の発行を行ない、多くの方に東ティモールやスリランカ、石巻の現状をお伝えする大事なメディアとして続けます。



協働の場としてのパルシック

淡路町にマルシェを開店

パルシック東京事務局は、2008年の出発以来、東京神田淡路町の小さなビルの3階にアジア太平洋資料センターの事務局と同居してきました。このことは、とくに会議を開かなくても、お互いの活動内容がよく分かる、互いに会議中は留守番を依頼することができるなど、多くのメリットがありましたが、同時に双方の業務が拡大するにつれて手狭となり、書類の置き場にも困るという状態になってきていました。2012年度から、パルシックは同じビルの1階に引っ越します。そして事務所の一角にささやかな販売所、「淡路町マルシェ(仮)」を開店して、パルシックのフェアトレード商品とともに東北の津波被災地や友人の畑で採れた有機野菜や卵などを販売します。

多くの人々の協働の場としてのパルシック

パルシックの事務局は職員以外にインターンやボランティアとして参加してくださる方々の協働の場として事務局を発展させていきます。多様な働き方、参加の仕方を発展させたく、そのためにも理事会と事務局職員は、財政を安定させること、財政強化のためのマーケティング力をつけることが2012年度も大きな課題となります。

インターン：東京事務所ばかりではなく海外事務所でも一定期間をそれぞれの課題に合わせて学習しながら、その学習をテーマにして無給あるいは生活の保障を得ながら働いてくださる方を常時募集しています。

営業ボランティア：各地でパルシックのフェアトレード商品の営業を担って頂きます。

イベントボランティア：各地でのイベントに参加してパルシックの広報活動をして頂きます。

事務ボランティア：入力作業や書類の整理などをしてくださる方を常時募集しています。

会員、寄付者によって支えられるパルシック

パルシックは多くの方々によって財政的にも支えられるように、支援の枠を広げるために努力します。

会 員：パルシックを支えてくださる個人

年会費 10,000円（アジア太平洋資料センターからの分割以来7,000円としてきましたが、2012年度からこれまでの個人賛助会費と同じ10,000円としていくことをお願いします）。

賛助会員：パルシックを財政的に支えてくださる団体

年会費 20,000円

東ティモール・サポーターズ：パルシックの東ティモール事業を応援してくださる個人

年会費 3,000円

スリランカ・サポーターズ：パルシックのスリランカ事業を応援してくださる個人

年会費 3,000円

東北・サポーターズ：パルシックの東北事業を応援してくださる個人

年会費 3,000円

パルシック 2012年度予算

(単位：円)

